

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 31 日現在

機関番号：22604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24593313

研究課題名(和文)慢性肝炎患者に対する外来看護システムの開発とその有効性の検討

研究課題名(英文)Development of an outpatient nursing system for patients with chronic hepatitis and its effectiveness

研究代表者

島田 恵 (Shimada, Megumi)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：20505383

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円

研究成果の概要(和文)：慢性肝炎患者調査から、患者の治療継続を支援するには“患者の考える”治療の必要性や生活上の制限を聞き取る必要があることが分かった。また、外来看護師調査からは、患者の相談対応技術や外来システム・連携に課題があることが分かった。そこで、アクティブ・ラーニング形式で外来看護システムについて学ぶ「外来看護師育成プログラム」を作成し、肝炎外来看護研修を実施した。受講者は「HIV/AIDS外来療養支援プロセス」を参考に自施設における外来看護システムを考案し、アクションプランを立案した。研修後のフォローアップ調査では、受講者10名中3名が達成率80%以上に到達しており、その看護師達は管理職経験者であった。

研究成果の概要(英文)：A survey of patients with chronic hepatitis revealed that learning about “treatment that patients consider necessary” and limitations in daily living is necessary for supporting their continued treatment. In addition, a survey of outpatient nurses revealed problems in developing patient consultation skills and with outpatient system liaison. Therefore, we have created an “Outpatient nurses’ development program,” based on active learning of the outpatient nursing system and have implemented nursing training for caring for outpatients with hepatitis. The nurses have the action plan about an outpatient nursing system for patients with chronic hepatitis, using the “Care process for supporting outpatients with HIV/AIDS” as a reference. After the training, a follow-up survey was conducted to confirm the nurses’ progress in regard to the action plan, which revealed that three out of ten nurses who received the training attained an 80% or higher achievement level.

研究分野：外来看護

キーワード：外来看護 慢性疾患 肝炎

### 1. 研究開始当初の背景

B・C型肝炎は、慢性化すると肝硬変、肝細胞癌に進行し、生命予後を左右する疾患であるため、患者には受診と治療を継続し生涯にわたるセルフマネジメントが求められる。しかし、肝炎患者の看護は、肝機能悪化時やインターフェロン療法に関する病棟看護が中心で、患者の療養期間の大半を占めセルフマネジメントの鍵を握る外来通院中の看護については明らかにされていない。

一方、一般の外来看護師はこれまで、事務的作業が多く、外来患者のケアに関わることができていなかった。また、外来には産休明け等ワークライフバランスを重視した看護師が配置される傾向があることから、あるべき外来看護の実践は難しく、医療機関による差がみられていた。

しかし、同じ慢性ウイルス感染症であるHIV感染症においては、「HIV/AIDSコーディネーターナース」による外来プライマリナーシングの先駆例があり、外来で療養指導や相談対応を計画的に実施し多面的な成果を上げている。

### 2. 研究の目的

慢性肝炎患者の外来における受療状況および外来看護師の療養支援に関する実態を把握し、その課題をもとに外来看護師育成プログラムを作成する。

そのプログラムをもとに外来看護研修を実施し、先駆的な外来看護実践をもとに自施設における外来看護システムを考案し、その実現に向けたアクションプランを立案し、研修修了後の達成プロセスをフォローし評価する。

これらを通して、慢性肝炎患者に対する新しい外来看護システムの開発、および効果的な外来看護師育成について検討することを目的とする。

### 3. 研究の方法

独立行政法人 国立国際医療研究センター病院、国府台病院および各都道府県より指定を受けた肝疾患診療連携拠点病院の全70施設(以下、拠点病院)等における外来療養支援と通院中の慢性肝炎患者の療養実態に関する調査を実施し【平成24年度：慢性肝炎患者の療養実態調査】、また慢性肝炎患者およびHIV/AIDS患者に対する外来看護の実態を把握し【平成25年度：慢性肝炎患者およびHIV/AIDS患者に対する外来看護の実態調査】、その結果から外来看護に求められるケアを分析し、外来看護師の育成プログラムを開発する。

その後、拠点病院の看護師を対象に肝炎外来看護師育成プログラムによる肝炎外来看護研修を実施し、研修修了後に外来看護の見直しに取り組む過程をフォローアップすることにより、育成プログラムの評価を行う【平成26・27年度：外来看護師育成プロ

ラムによる研修実施と修了後評価】

### 4. 研究成果

(1) 抗ウイルス療法実施中の慢性肝炎患者への外来療養支援に関する患者対象実態調査

#### 結果

患者用自記式質問紙を214部配布し、182部の返送(回収率85.0%)があり、171部(有効回答79.9%)を分析対象とした。

過去2週間において100%のアドヒアランスを達成した対象患者は全体の55.6%で、約半数の対象者が内服忘れや飲み間違いを経験していた。一方、全体のアドヒアランスは $95.8 \pm 9.5\%$ と、0%の1名を除くすべての対象者が70%以上であった。

また、ノンアドヒアランスと「性別・年齢・内服必要性の認識の低さ・内服に伴う生活上の制限」の関連が明らかになった。

#### 考察

服薬アドヒアランスは、他の慢性疾患患者のアドヒアランスと比較して高い水準であった。一方、ノンアドヒアランスの割合は、海外の先行研究(20~30%)と比較しても高く、本邦でもアドヒアランス改善のための支援を検討する必要性が示唆された。

また、ノンアドヒアランスとの関連が示唆された「必要性の認識の低さ」については、治療効果に対する信頼の揺らぎやうっかり飲み忘れが関連しており、治療の必要性や効果の認識が薄れてしまう可能性が高いと考えられる。「生活上の制限」についても、薬剤量の調整や頻回な検査などに伴う通院などを生活上の制限と認識していた可能性があり、生活の中で抱く拘束感や負担感から服薬に対する嫌悪感・拒否感といった感情が生じ、内服に至らなかったものと推察される。

このように生活上の制限と感じるとされる内容について、治療開始前から日程調整や対応の工夫、十分な説明やシミュレーションを行い、個人の生活背景に合わせた治療スケジュールを立てられるような支援が必要と考えられる。

(2) 肝炎外来看護師育成のための看護研修の基本方針と特徴

初年度の慢性肝炎患者に対する調査から、患者の治療継続を支援するには、“患者の考える”治療の必要性や生活上の制限を聞き取る必要があると考えられた。また、2年目に実施した、外来看護師に対する調査からは、“患者の相談対応技術”や“外来システム・連携”に課題があることが分かった。

以上のことから、肝炎患者の外来通院と治療の継続を支援するために、相談対応の技術や外来システム・連携について看護師が具体的に学び、日々の実践にすぐに取り入れられることを基本方針とし、以下のような特徴を有する研修を企画した。

### プログラムの特徴

肝炎の病態・治療や看護等に関する基本的な講義は省略し、今後求められる外来看護についてや外来看護の取り組み例を提示するなど、外来看護に焦点をあてた講義のみを最小限に組み込む。

研修参加者によるケーススタディやロールプレイと、それらを通した自らの学びを振り返るリフレクションを中心にプログラムし、研修参加者自身によるアクティブラーニングで進める。

研修参加前に自施設の外来に関する情報収集を行い、研修最終日(2日目)には、参加者各自の外来において看護をどのように実践していくか、課題分析と目標設定にもとづくアクションプランを作成する。

研修終了後最長1年間、アクションプランの実施状況をフォローアップし、この研修の評価を行い外来看護師育成に関する示唆を得る。

### 研修日程・参加人数とプログラム

- 第1回:平成26年11月1日(土)・2日(日)  
4名参加  
第2回:平成27年5月30日(土)・31日(日)  
6名参加

### 研修結果と考察

研修参加者10名のうち、看護師長や副看護師長の経験者または在職者は4名で、その全員がフォローアップ調査にすべて回答し、アクションプランの最終達成率は50~95%であった。一方、外来看護師として役職を有しないいわゆるスタッフナースは6名で、そのうち4名がフォローアップ調査に1度も応じないか、または途中でやめていた。また、フォローアップ調査にすべて回答した2名のうち、1名はアクションプランの最終達成率0%であった。

また、アクションプランの最終達成率が50%以上であった5名は、アクションプランの遂行に向けて医師や外来・病棟看護師、薬剤師、事務職等、院内多職種を巻き込んでいた。このことから、アクションプランの達成率は、管理的立場を活用することによって組織横断的に動くことが可能であることと関係している可能性が示唆された。

今後は、このような研修の対象者を外来看護師長等の管理的立場にあるものとし、アクションプランの達成率を定期的にフォローすることまでを研修計画とすることが、従来の外来看護を見直し、患者の理解している治療や生活を聴き取り、それをもとに継続的にケアを実施していく新たな外来看護システムを開発していくことにつながると考えられた。

(3) 肝炎患者に対する新たな外来看護システムについて

外来看護の現状では、事務的作業が多く、

外来患者に潜在するセルフケア困難という問題に看護師として対応できていないことが、これまでの調査で明らかになっている。本研究の初年度調査からは、“患者の考える”治療の必要性や生活上の制限を聞き取る必要が示唆された。そこで、新たな外来看護システムとしては、外来看護師が患者に関わり、コミュニケーションを図り、患者ニーズを的確に把握することのできるシステムが必要となる。さらに、そのニーズに対応するためには、医師や薬剤師、病棟看護師等との連携が必須であり、患者に対する継続看護を可能とするシステムが必要である。この新しいシステムには、患者ニーズのアセスメントシートや、多職種と情報を共有するシートなど、使用できるツールを作成し、そのツールの使い方をマニュアル化、手順化し、関係職種で理解していくことが、実践化に効果的であると考えられる。

しかし、2年目の調査からは、外来看護師には患者の相談対応技術や外来システム・連携に課題があることが分かった。そこで、研修プログラムはこれらの課題を克服するためのアクティブラーニング形式とし、研修後には自施設の外来における外来看護システムを新たに作り上げられるようアクションプランを作成することとした。さらに、その取り組みを継続的にフォローし、進捗を確認した。これによって、研修で学習した先駆的な外来看護の実践例を自分の外来でどのように組み込んでいくか、考えながら取り組むことにつながった。今後、このような研修では、フォローアップまでも組み込むことが、新たな外来看護システムを実現するために効果的であると考えられる。

また、外来看護システムをつくりあげるためには、研修受講者がスタッフナースであるよりも、外来看護師長など管理的な立場である、またはその経験がある看護師の方が、組織横断的に機能することができ、アクションプランの達成率を上げることができると考えられた。したがって、研修対象者を管理的な立場にある外来看護師とすることも効果的である。

今後は、新たな外来看護システムによるケアの効果を外来患者の再入院率、受診中断率などの指標を用いて前向きに調査する必要がある。

### 5. 主な発表論文等

[学会発表](計1件)

1. 郷 洋文、正木尚彦、田中真琴、鈴木美穂、山本則子、島田 恵:抗ウイルス療法を受けるB型・C型慢性肝炎患者の服薬アドヒアランスと関連要因の探索・第6回日本慢性看護学会学術集会・平成25年6月29日(土)・30日(日)兵庫医療大学(兵庫県、神戸市)。

[その他]

1. ホームページ「HIV/AIDS 外来看護」の研究紹介に掲載

「平成 24 年度 抗ウイルス療法実施中の慢性肝炎患者のアドヒアランスに関する患者対象実態調査」

[http://hivaidsnursing.jp/pdf/h24\\_tyukanhoukoku.pdf](http://hivaidsnursing.jp/pdf/h24_tyukanhoukoku.pdf)

6. 研究組織

(1)研究代表者

島田 恵 (SHIMADA, Megumi)

首都大学東京・人間健康科学研究科・准教授

研究者番号：20505383

(2)研究分担者

正木 尚彦 (MASAKI, Naohiko)

独立行政法人 国立国際医療研究センター・肝炎・免疫研究センター・肝炎情報センター長

研究者番号：40219316

(3)連携研究者

池田 和子 (IKEDA, Kazuko)

独立行政法人 国立国際医療研究センター・エイズ治療・研究開発センター・看護支援調整職

研究者番号：00505406

(4)研究協力者

木村 弘江 (KIMURA, Hiroe)

独立行政法人 国立国際医療研究センター・国府台病院・看護部長

金子 千秋 (KANEKO, Chiaki)

独立行政法人 国立国際医療研究センター・国府台病院・外来看護師長

眞野 恵子 (MANO, Keiko)

藤田保健衛生大学病院・看護部長

兒玉 俊彦 (KODAMA, Toshihiko)

藤田保健衛生大学病院・肝疾患相談室・専任看護師

郷 洋文 (GO, Hirohumi)

東京大学・大学院医学系研究科・健康科学・看護学専攻・博士(前期)課程